

交付運用報告書

この冊子を読むことでファンドの運用成績を確認できます。
受益者のみなさまの投資判断の一助として是非ご活用ください。

三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

追加型投信／内外／株式

愛称：ブルーゴールド

第11期末（2018年7月23日）	
基準価額	10,132円
純資産総額	4,057百万円
騰落率 (上昇率・下落率)	+6.2%
分配金合計	700円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

第11期（決算日：2018年7月23日）

作成対象期間

(2017年7月25日～2018年7月23日)

信託期間を従来の2019年7月22日から2024年7月22日へ延長しました。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、主に外国投資信託への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式などを高位に組み入れた運用を行い中長期的な値上がり益の獲得をめざす運用を行うことを目的としております。また、日本短期債券マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしく願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で閲覧できます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧およびダウンロード方法＞

- ①右記ホームページにアクセス
- ②「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドを検索し、選択
- ③ファンドの詳細ページで運用報告書（全体版）を選択



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
(受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客様のお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第11期：2017/7/25～2018/7/23)

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ6.2%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



- ・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

水関連企業の株価が上昇したことなどが、基準価額の上昇要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2017年7月25日～2018年7月23日)

i 記載された金額は、期間中にファンドを介して受益者のみなさまが間接的にご負担いただいた費用です。

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	115円	1.076%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	(29)	(0.269)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(80)	(0.753)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(6)	(0.054)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	115	1.079	
期中の平均基準価額は、10,686円です。			

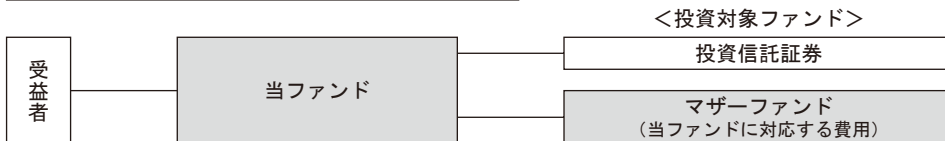
(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【費用開示の仕組み】

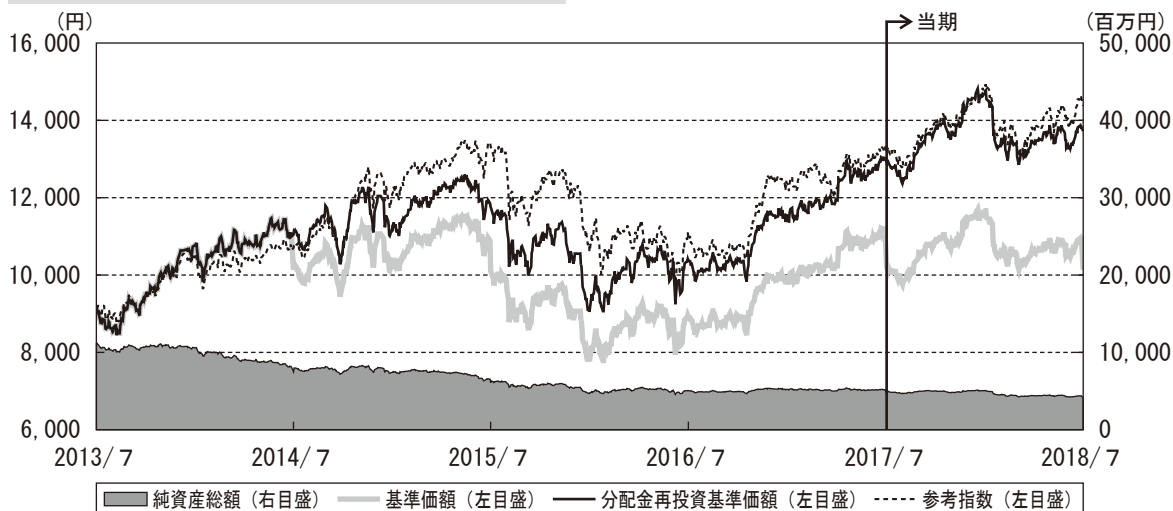
下記 部分の費用が費用明細に含まれています。



当ファンドの費用に関する情報を後記「<ご参考>当ファンドに関わる費用について」に記載していますので、ご確認ください。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2013年7月22日～2018年7月23日)



- ・分配金再投資基準価額、参考指数は、2013年7月22日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
- ・海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/7/22 期初	2014/7/22 決算日	2015/7/22 決算日	2016/7/22 決算日	2017/7/24 決算日	2018/7/23 決算日
基準価額 (円)	9,168	10,144	10,100	8,912	10,195	10,132
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	900	700	0	900	700
分配金再投資基準価額騰落率	—	20.5%	6.5%	-11.8%	24.5%	6.2%
参考指数騰落率	—	16.7%	24.6%	-18.1%	20.5%	9.3%
純資産総額 (百万円)	11,260	7,481	6,056	5,048	4,717	4,057

- ・ファンド年間騰落率は、参考指数年間騰落率と比較するため、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

参考指数は、MSCI ワールド インデックス (円換算ベース) です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

(第11期：2017/7/25～2018/7/23)

◎株式市況

- ・期を通してみると上昇しました。
- ・期首から2018年1月までは、北朝鮮情勢の緊迫化や米トランプ政権の政策遂行への懸念があったものの、米国の良好な経済指標の発表に加え、米税制改革による企業業績の改善期待の高まりなどを受け上昇しました。2月から3月にかけては、米利上げペースの加速や米国の輸入関税導入により世界的な貿易戦争が懸念され、株価は一旦下落したものの、その後レンジ内での動きとなりました。

◎為替市況

- ・米国の良好な経済指標や米国の税制改革などを受けて米ドルが円に対して上昇したものの、米トランプ政権の通商政策に対する懸念などを背景とした市場参加者のリスク回避姿勢の強まりを受けて米ドルが円に対して下落し、期を通してみると米ドルは対円でほぼ変わらずとなりました。

◎国内短期債券市況

- ・国内金利は、期首から2017年11月中旬頃まで地政学リスクの高まりや好需給などから低下していました。しかし、11月下旬以降の海外金利の上昇や期末に日銀の金融緩和政策に関する観測報道を受けて上昇したことなどにより、前期末比金利は上昇しました。こうしたなか、一般債の国債とのスプレッド（利回り格差）は、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などによる良好な需給環境を背景に概ね横ばい圏で推移しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

＜三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド＞

- ・アイルランド籍円建て外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドへの投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式などを高位に組み入れる運用を行いました。また、日本短期債券マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。
- ・当期は、水関連企業の株価が上昇したことなどから、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。

＜KBIエコ・ウォーター・ファンド＞

基準価額は期首に比べ7.3%の上昇となりました。

- ・成長見通しが明るいと思われる企業や、水関連の各分野で市場を牽引していくような企業への投資を継続しました。

- ・投資分野別では、「水関連装置」、「公益事業」、「水処理技術」の3つの分野を中心とした投資を継続しました。
- ・「水関連装置」分野については、米国などで建設需要が回復していることなどから、今後の水関連需要の増加が見込まれると考え投資を継続しました。
- ・「公益事業」分野については、水関連需要の高まりから関連銘柄への投資のほか、株式市場全体の変動性が高まった場合の株価の安定性を期待し、投資を継続しました。
- ・「水処理技術」分野については、中国などにおける水質汚染に対する規制強化などから、高い技術を有する企業が恩恵を受けると考え投資を継続しました。
- ・前記のような方針に基づき運用した結果、組入銘柄の現地通貨ベースでの株価が上昇しました。パフォーマンスに影響した主な銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

◎銘柄

- ・CHINA WATER AFFAIRS GROUP (中国) : 子会社などを通じて、中国で汚水処理事業を手掛ける。中国における汚水処理の需要拡大を背景に決算内容が市場予想を上回ったことなどから、株価は上昇しました。
- ・DANAHER CORP (アメリカ) : 特殊計測機器や環境に関連する計測・検査機器などを製造する。汚水処理などの環境対策への需要拡大により事業の拡大が期待されたことなどから株価は上昇しました。

(ご参考)

組入上位5業種

2017年6月末

	業種	比率
1	公益事業	36.58%
2	水関連装置	24.44%
3	水処理技術	21.68%
4	エンジニアリング	14.87%
5	環境保全	2.43%

2018年6月末

	業種	比率
1	水関連装置	31.86%
2	公益事業	31.64%
3	水処理技術	19.69%
4	エンジニアリング	12.21%
5	環境保全	4.59%



- ・比率はKBIエコ・ウォーター・ファンドの現物株式評価額に対する割合です。
- ・業種はKBI グローバル インベスターズ リミテッドが独自に分類したものです。

＜日本短期債券マザーファンド＞

基準価額は期首に比べ0.2%の上昇となりました。

◎組入比率

- ・期を通じて高位組み入れを維持しました。

◎債券種別構成

- ・国内金利の低位安定推移を見込み、利回り向上の観点から一般債をオーバーウェイトとしました。

◎デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

- ・国内金利の短期ゾーンは横ばい圏で推移すると判断し、ベンチマーク対比長めで調整しました。

◎残存期間構成

- ・中期ゾーンをオーバーウェイトしました。

【ベンチマークとの比較】

ファンドの騰落率は、ベンチマーク（NOMURA-BPI短期）の騰落率（-0.1%）を0.3%上回りました。

- ・この主な要因は、次の通りです。

（プラス要因）

◎債券種別構成

- ・国内金利の中短期ゾーンがマイナスで推移するなか、プラス利回りの一般債をベンチマーク対比でオーバーウェイトとしていたこと。

（ご参考）

利回り・デュレーション

期首（2017年7月24日）

最終利回り	0.2%
直接利回り	0.5%
デュレーション	2.4年

期末（2018年7月23日）

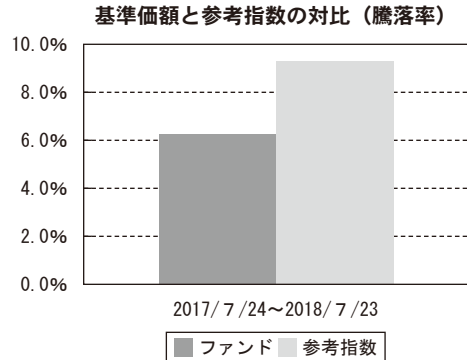
最終利回り	0.2%
直接利回り	0.6%
デュレーション	2.3年

- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

i ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はMSCI ワールド インデックス（円換算ベース）です。



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額的水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 （単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第11期
	2017年7月25日~2018年7月23日
当期分配金	700
（対基準価額比率）	6.462%
当期の収益	629
当期の収益以外	70
翌期繰越分配対象額	647

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

<三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド>

◎今後の運用方針

- ・アイルランド籍円建て外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドへの投資を行います。

<KBIエコ・ウォーター・ファンド>

◎運用環境の見通し

- ・世界的に水の使用量拡大が見込まれることに加え、米国経済が底堅く推移していることなどを背景に、水関連市場における需要は引き続き強いと考えています。特に、水インフラ関連への設備投資は、公共投資拡大や老朽化に伴う更新需要の拡大を背景に、今後グローバルに増加するとみられ、良好な投資環境が継続すると考えています。また、水質汚染問題がさらなる規制強化に繋がり、水処理技術などの市場が拡大するとみています。

◎今後の運用方針

- ・バリュエーションを重視しつつ、独自のテーマに基づき今後の業績拡大が期待できる企業に注目します。加えて、財務改善策や事業再編への取り組みにも注目し、銘柄選別を実施する方針です。

<日本短期債券マザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・雇用環境は失業率が2%台に低下するなど着実な改善を続けており、企業の設備投資も増加傾向を続けています。また、輸出・生産も海外景気の緩やかな成長を背景に増加基調にあります。そして、個人消費も雇用・所得環境の改善が続くもとの、緩やかな増加傾向をたどるとみられ、本邦景気は緩やかな拡大を続けると思われれます。
- ・「物価安定の目標」の実現に向けて、日銀は引き続き金融緩和姿勢をもって臨むものと思われ、中短期金利は低位での推移を想定します。
- ・国内一般債のスプレッドについては、日銀の社債買入オペや投資家の資金余剰感などによる良好な需給環境を背景に概ね横ばい圏で推移し、一般債は国債と異なりプラス利回りを維持できると予想します。

◎今後の運用方針

- ・安定した利子収益確保をめざし、債券組入比率は引き続き高位に維持する方針です。
- ・ファンド全体のデュレーションは、中短期ゾーンの金利が低位安定すると判断し、ベンチマーク対比長めを基本に調整する方針です。
- ・債券種別構成は、流動性や銘柄分散に留意しつつ、一般債の組入比率をベンチマーク比高めに維持します。

お知らせ

i 受益者のみなさまに知っていただきたいファンドに関するお知らせを掲載しています。

◎約款変更

- ・ 当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/>→変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>) (2018年1月1日)
- ・ 信託期間を従来の2019年7月22日から2024年7月22日へ延長し、信託約款に所要の変更を行いました。(2018年4月24日)
- ・ 信用リスクを適正に管理する方法を新たに定める(分散型に分類)とともに、約款記載の整備を行うため、信用リスク集中回避のための投資制限の追加およびこれに伴う投資制限の記載変更ならびに約款記載の整備を行い、信託約款に所要の変更を行いました。(2018年4月24日)

◎その他

- ・ 本資料内における旧シティ債券インデックスは、ブランド変更に伴い、FTSE債券インデックスの名称に変更しています。
- ・ 2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。

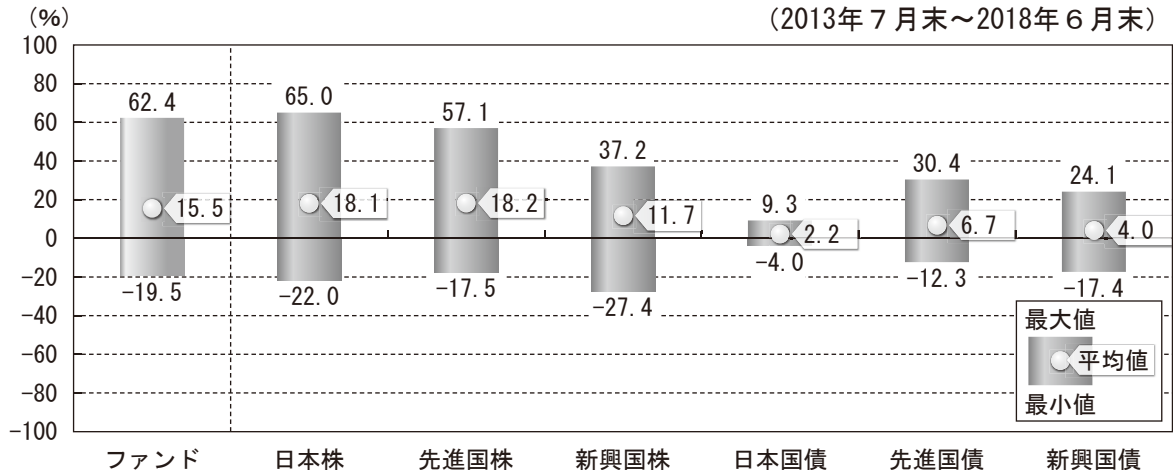
* 本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>)にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2024年7月22日 [当初、2019年7月22日] まで (2007年7月27日設定)	
運用方針	主として円建ての外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を通じて、世界（含む日本）の水関連企業の株式に実質的な投資を行います。実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	当ファンド	円建ての外国投資信託であるKBIエコ・ウォーター・ファンドおよび証券投資信託である日本短期債券マザーファンドの投資信託証券への投資を主要投資対象とします。
	KBIエコ・ウォーター・ファンド	世界（含む日本）の水関連企業の株式を主要投資対象とします。
	日本短期債券マザーファンド	わが国の公社債・金融商品を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。
運用方法	世界（含む日本）の水関連企業の株式を実質的な主要投資対象とし、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。	
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

i 当ファンドの基準価額の変動率を他資産と比較することでファンドの値動き特性を捉えるのにお役立てください。



○上記は、2013年7月から2018年6月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

○各資産クラスの指数

- 日本株 : TOPIX (配当込み)
- 先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
- 新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
- 日本国債 : NOMURA-BPI (国債)
- 先進国債 : FTSE世界国債インデックス (除く日本)
- 新興国債 : JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2018年7月23日現在)

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名		第11期末 2018年7月23日
<input checked="" type="checkbox"/>	K B I エコ・ウォーター・ファンド	97.0%
<input type="checkbox"/>	日本短期債券マザーファンド	0.2%

・比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

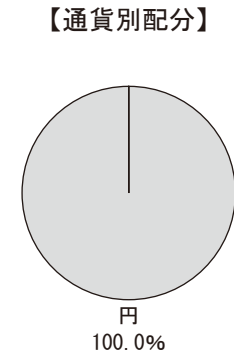
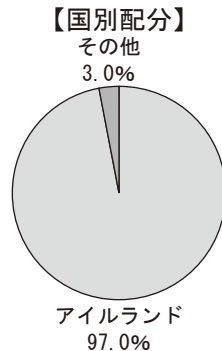
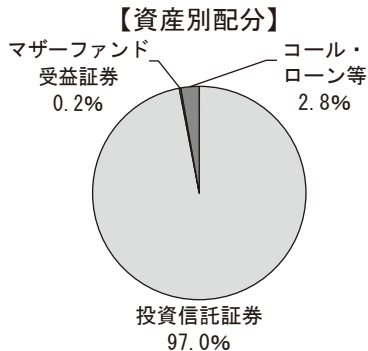
上記 の組入ファンドについて、後掲「組入上位ファンドの概要」の期間が当ファンドの期間と異なる点にご留意ください。

純資産等

項目	第11期末 2018年7月23日
純資産総額	4,057,009,770円
受益権口数	4,004,175,708口
1万口当たり基準価額	10,132円

・当期中において
追加設定元本は 292,197,468円
同解約元本は 915,484,473円です。

種別構成等



・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。
 ・【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

組入上位ファンドの概要

KBIエコ・ウォーター・ファンド

(2018年2月28日現在)

基準価額の推移



組入上位10銘柄

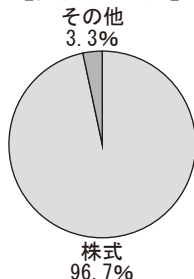
(組入銘柄数：50銘柄 (国内：1、外国：49))

順位	銘柄	国	業種	比率
1	STANTEC INC	カナダ	エンジニアリング	4.7%
2	VEOLIA ENVIRONNEMENT	フランス	公益事業	4.6%
3	DANAHER CORP	アメリカ	水処理技術	4.2%
4	PICO HOLDINGS INC	アメリカ	公益事業	4.1%
5	ENERCARE INC	カナダ	水関連装置	3.9%
6	REXNORD CORP	アメリカ	水関連装置	3.6%
7	ECOLAB INC	アメリカ	水処理技術	3.6%
8	BETJING ENTERPRISES WATER GR	中国	公益事業	3.2%
9	ARCADIS NV	オランダ	エンジニアリング	3.0%
10	ROPER TECHNOLOGIES INC	アメリカ	水処理技術	3.0%

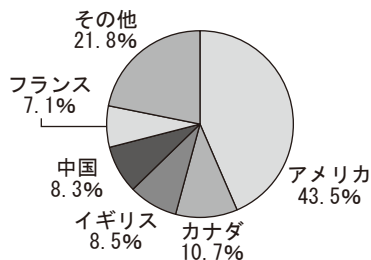
- ・比率はファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・業種はKBI グローバル インベスターズ リミテッドが独自に分類したものです。
- ・国名は、各企業のビジネス展開等を考慮したKBI グローバル インベスターズ リミテッド独自の判断により区分したものです。

種別構成等

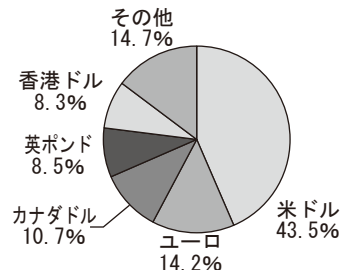
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・比率はファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国名は、各企業のビジネス展開等を考慮したKBI グローバル インベスターズ リミテッド独自の判断により区分したものです。

1万口当たりの費用明細

(2017年3月1日～2018年2月28日)

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

「参考情報」

費用項目	比率
運用管理費用 (信託報酬)	0.69%
その他	0.15%
費用合計	0.83%

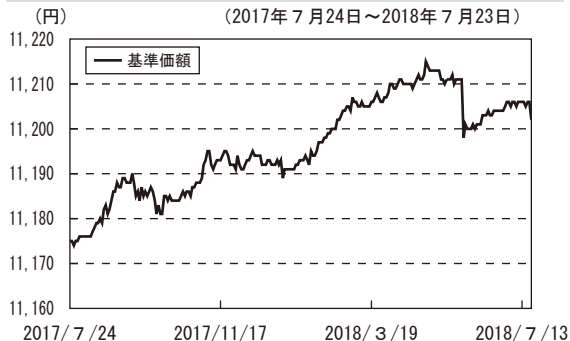
- ・左記は、FINANCIAL STATEMENTSに掲載されている費用明細を三菱UFJ国際投信が「運用管理費用 (信託報酬)」と「その他」に分類して表示したものです。
- ・比率は、左記分類による費用金額の合計を期中の平均純資産総額で除した参考値です。

組入上位ファンドの概要

日本短期債券マザーファンド

(2018年7月23日現在)

基準価額の推移



組入上位10銘柄

(組入銘柄数：20銘柄)

	銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1	第23回三井住友銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.0%
2	第28回三菱東京UFJ銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.0%
3	第6回りそな銀行(劣後特約付)	債券	日本	社債	5.0%
4	第316回北海道電力	債券	日本	社債	4.9%
5	第237回四国電力	債券	日本	社債	4.9%
6	第4回クレディ・アグリコル・エス・エー円債(2014)	債券	日本	社債	4.9%
7	第43回野村ホールディングス	債券	日本	社債	4.9%
8	第31回ソニー	債券	日本	社債	4.9%
9	第8回三井住友信託銀行(社債限定同順位特約付)	債券	日本	社債	4.9%
10	第50回日本電気	債券	日本	社債	4.9%

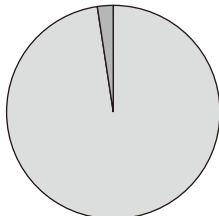
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

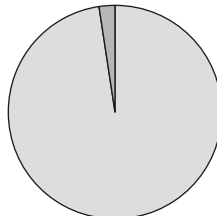
2.4%

国内債券
97.6%

【国別配分】

その他

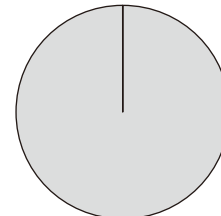
2.4%

日本
97.6%

【通貨別配分】

円

100.0%



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含まれます。

1万口当たりの費用明細

(2017年7月25日～2018年7月23日)

該当事項はございません。

＜ご参考＞当ファンドに関わる費用について

ファンド名称（当ファンド）	対象期間	費用合計 （年率）
三菱UFJ グローバル・エコ・ウォーター・ファンド	2017年7月25日 ～2018年7月23日	1.08%

ファンド名称（組入上位ファンド）	対象期間	費用合計 （年率）
KBIエコ・ウォーター・ファンド	2017年3月1日 ～2018年2月28日	0.83%

（注）当ファンドの費用合計（年率）は、当ファンドの「1万口当たりの費用明細」に記載された合計の比率です。

（注）組入上位ファンドの費用合計（年率）は、「組入上位ファンドの概要」の「1万口当たりの費用明細」に掲載されている参考情報にある各費用項目の合計の比率であり、当ファンドの対象期間とは異なる場合があります。また、対象期間が1年超・未満の場合には年率換算して表示しています。

指数に関して

○ファンドの参考指数である『MSCI ワールド インデックス (円換算ベース)』について

MSCI ワールド インデックスとは、MSCI Inc. が開発した株価指数です。MSCI ワールド インデックス (円換算ベース) は、MSCI ワールド インデックス (米ドルベース) をもとに、委託会社が計算したものです。また、MSCI ワールド インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

TOPIX (配当込み)

TOPIX (配当込み) とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数 (TOPIX) に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX (配当込み) に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX (配当込み) の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX (配当込み) の算出もしくは公表の停止またはTOPIX (配当込み) の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)

MSCI コクサイ・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み) とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI (国債)

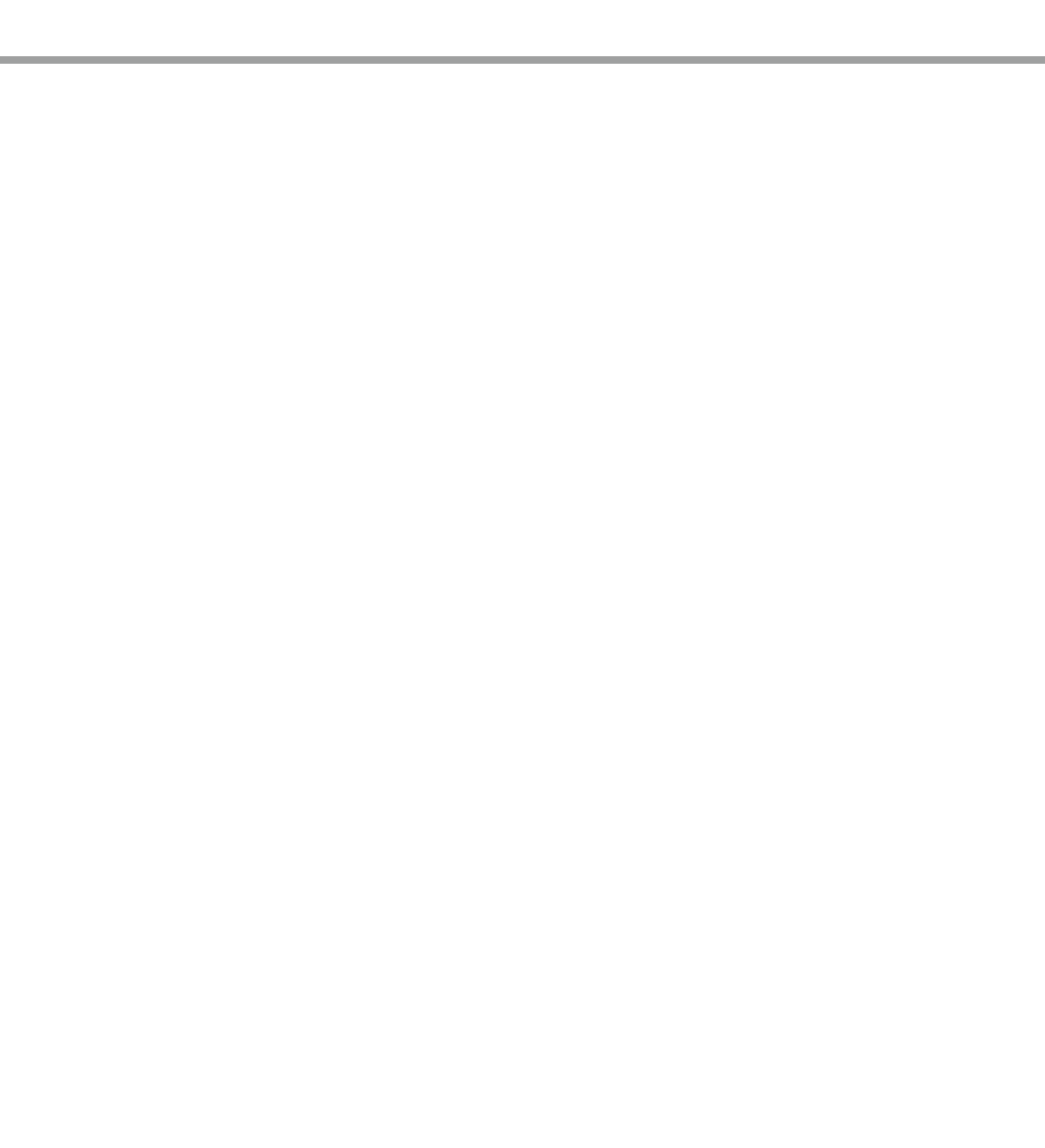
NOMURA-BPI とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI (国債) はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI (国債) は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

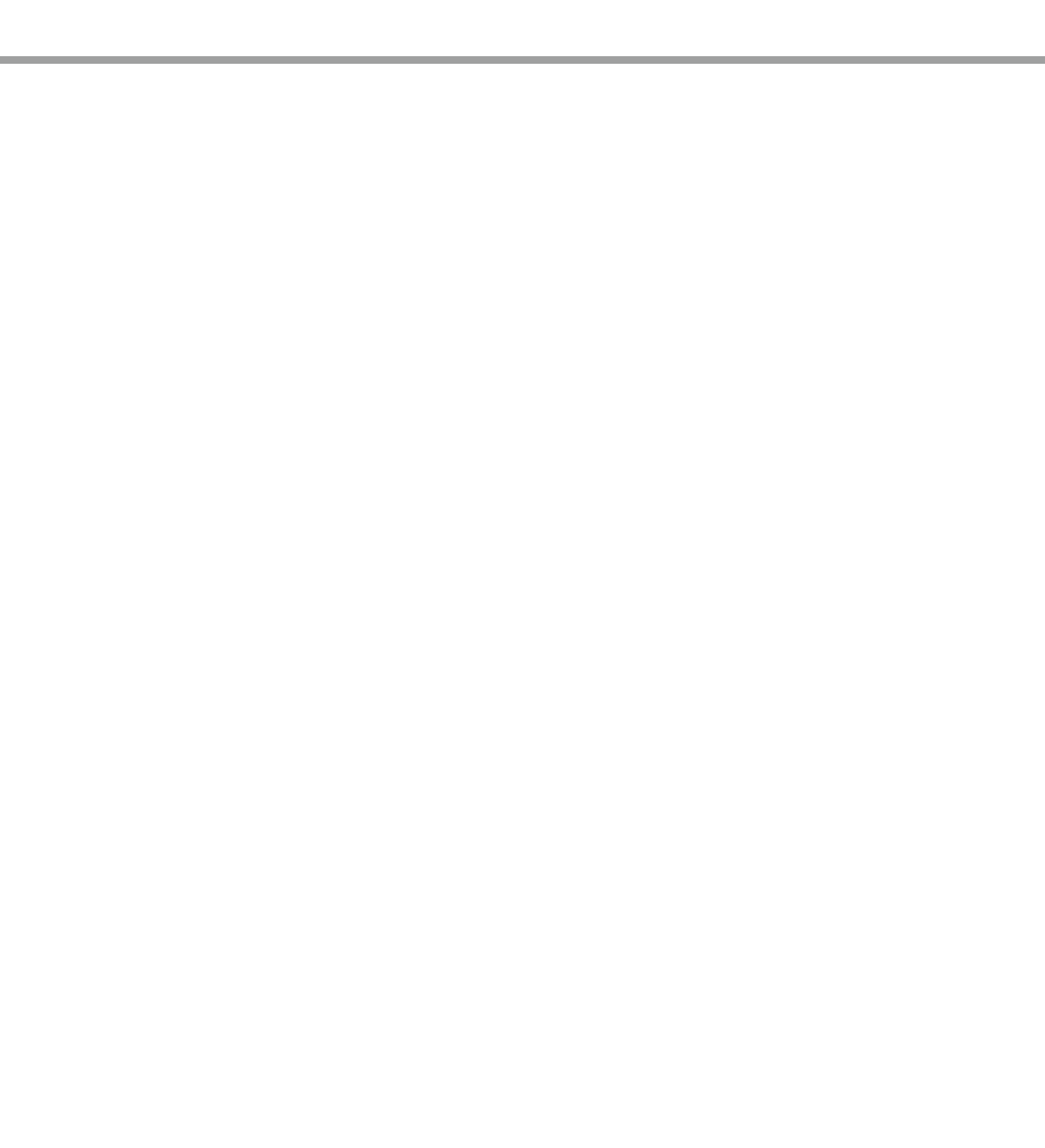
FTSE世界国債インデックス (除く日本)

FTSE世界国債インデックス (除く日本) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。







三菱UFJ国際投信